

古典文法トレーニング 長文課題 品詞分解と現代語訳

大問三〇（出典：『更級日記』）

◎品詞分解（名詞は基本的に非表示。非活用語は基本的に初出のみ。同色の助詞は同内容を示す。）

夜深く出でしかク・用ダ下二用過去・已接助（順確）ば、人々困サ変・接助じて、やひろうぢ格助ハ四・体といふ所格助ラ四・用に留まりて、物食ひなどするほど副助サ変・体にし副助格助も、供断定・体なる者ども、「高名格助ハ四・体の栗駒山にはあらずや。日も暮れ方ラ四・用完了・終推定・終になりぬ。めり。主たち調度取りおはさうぜよや」と言ハ四・体ふを、いとものおそろしう聞格助く。

その山越え果下二用タ下二用てて、贅野の池のほとりへ行き着きたるほど、日は山の端ラ四・用完了・用完了・終にかりにたり。「今は宿とれ」とて、人々あかれて宿求むる、「所端ナリ・用にて、いとあやしげなる下衆係助ラ変・体の小家なむある」と言ハ四・体接助（偶然）ふに、「いかがはせむ」

とて、そこに宿りぬ。「みな人々京丁勇上作者・完了・終にまかりぬ（※1）」とて、あやし格助の男二人ぞゐたる。その夜も寝も係助寝格助ず、この男出で入りし歩下二用ラ四・用カ四・体格助くを、奥の方なる女ども、「などかくし歩副カ四・未尊（女）・形かるるぞ」と問ハ四・体推定・已接助（偶然）ふなれば、「いなや、

心も知らぬ人を宿係助ラ四・未打消・体したてまつりて、釜係助副助係助カ四・用カ四・未受身・用完了・未接助（順仮）はしも引き抜かれな副ば、いかにすサ変・終推定・体係助べきぞ（※2）と思ハ四・用ひて、え副寝下二・未接助ラ四・用カ四・体係助終助で回り歩下二・未打消・終くぞかし」と、寝下二・用存続・体たると思ハ四・用ひて言ハ四・体ふ、聞カ四・体接助（偶然）くに、いとむくむくしくをかし。

※1：「罷る」は主に謙讓語（貴人の許から）退出するの意味だが、ここでは自尊敬語になるのを防ぐために丁寧語で解釈する。

※2：ここでの「べき」は適當（どうするのがよいか、いやどうしようもない）のほか、推量（どうするだろうか、いやどうしようもない）や意志（どうしようか、いたどうしようもない）、可能（どうすることが出来るか、いやどうしようもない）とも解釈できる。

◎現代語訳（『ステップアップノート30 古典文法トレーニング』参照）